

専門メディアの現場から ⑤

# 物流の「現場」と「人」にフォーカス

業界ごとに存在する数多くの専門メディア。  
 広報担当者にとっては、メディア対応の登龍門となることも多いでしょう。  
 その編集方針やヒット企画、注力テーマを聞き、関係構築のヒントを探ります。

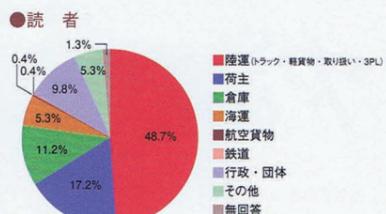
物流産業新聞社

## 『物流Weekly』



- 部数 16万5000部
- 発行 毎週月曜日
- 定価 3カ月/1万2000円(税・送料込)
- 創刊 1987年
- 形態 ブランケット版16~32ページ(カラー面6ページ)

●沿革  
 近年の情報量の増加にともない、2015年に従来のタブロイド版36ページからブランケット版に移行。



運送・倉庫業経営者、荷主が読者

物流業界紙で唯一のカラー面を採用し、最大のボリュームを誇る『物流Weekly』。物流・運送・ロジスティクス分野をカバーし、主にトラック運送からSCM(物流管理システム)、マテハン(作業機械)、RFID(自動認識技術)などの情報を総合的に伝える。

業界の9割が中小企業。近年は経営者の高齢化が進む一方で、2代目や3代目へ事業が承継される過渡期でもあり、紙面づくりも変化している。同紙ではISO9001認証を取得した2005年から、読者アンケートを定期的を実施。その結果、現場のリアルな声を豊富に取り入れ、カラー面を増やすなど大手から中小・零細企業経営者まで幅広く共感が得られる紙面を目指す。

「物流業界は流通業界とは異なり、新製品や新サービスなどニュース性のあるものが少なく、速報性が求められるネタもほとんどありません。そのためじっくりと読める一歩踏み込んだ記事を毎週掲載しています」と代表取締役の高田直樹さんは話す。

読者の関心が高いのは、業界にとって永遠の課題ともいえる交通事故や安全対策に関するものと、ドライバー不

足に関連した記事。特に人材不足は将来にわたって業界全体が直面する深刻な問題であり、取り上げる頻度も多い。2014年9月には、国土交通省がドライバー不足への対応策のひとつとして、女性のトラックドライバーを「トラガール」と名付け、女性活用プロジェクトを発足するなど話題となった。

「女性の活用をはじめ業界の取り組みが広く報じられることで、物流の重要性やトラックドライバーが誇りの持てる職業であると社会的に正しく認知されてほしい。特に若者に関心を持ってもらうことは僕らマスコミの課題でもあり、役目だと感じています」。

新製品・サービス情報に注目

企業からのプレスリリースについて、そのまま掲載することは少ないという。「うちはすべて署名記事がモットー。リリースの内容だけで満足せず、足で稼いだ情報を大事にしたい」。送付先が国土交通省の記者クラブ内のは編集長がすべて目を通し、それ以外は各支局長のもとに集約されている。「新製品やサービスは常に情報を求めています。読者ニーズを第一に考え、読者目線で面白いと思えるものをどんどん記事にしていきたいですね」。

**給料か休みか**  
 給料は減っても、休みを多く取りたい  
 36.5%  
 668人 (女性22人)

**ドライバー意識調査実施**  
 ①選択理由  
 家族の生活費に充てる...33.0%  
 貯蓄をしたい...24.3%  
 自分の生活費に充てる...16.5%  
 趣味に使いたい...2.8%  
 独立や起業の資金にしたい...1.0%  
 その他...1.0%

②選択理由  
 体を休めたい...30.7%  
 家族との時間が欲しい...25.7%  
 自分の時間が欲しい...23.3%  
 趣味の時間が欲しい...15.3%  
 家族の介護...5.0%

**今週の調査報告**  
 消費税増税後、荷動きに変化はありましたか?  
 増税前と変わらず51.1%  
 増えたと答えた48.9%

「給料or休み」究極の選択で話題になった  
 ドライバー意識調査(2014年9月15日号)

668人に取材し、どちらを求めているかデータで明らかにした。経営者から「参考になった」など予想以上の反響があった。

DATA

- 年間の定番企画
  - 1 若手経営者による対談・座談会
  - 2 荷主インタビュー
  - 3 躍進する女性陣
- 最近のヒット企画
  - 1 ドライバー意識調査「給料か休みか」
  - 2 燃料価格調査(軽油・尿素水実勢価格報告)
  - 3 物流掲示板コーナー(読者投稿欄)

情報受付窓口 → ☎ 03-3226-9371 ☎ 03-3226-9645 ✉ media@weekly-net.co.jp 〒160-0006 東京都新宿区舟町7 ロクサンビル4F

**躍進する女性陣**  
 375期  
 森田香里さん  
 念願のトラックドライバーに

女性のインタビュー企画は不動の人気

女性経営者から事務、ドライバーまで業界に携わる女性を取材。読者調査では常に上位であることから、1面のカラー掲載となった。



新聞ならではの信頼感から掲示板での交流が活発

読者が自由に投稿できる情報欄は、2013年2月の開始直後から依頼が殺到。現在は見開き2ページで展開する。人手不足と景気回復から、「協力会社募集」が目立つ。

プロフィール

代表取締役  
**高田直樹さん**  
 (ただ・なおき) 1969年生まれ。明治大学商学部卒。会社員を経て、1996年に記者として入社。首都圏を担当エリアとし、埼玉支局、千葉支局などの支局長を経て、2012年4月に現職に就任。「休みの日は家族と過ごすよう心がけています。特に、娘の笑顔には癒されています(笑)」。

